

遊びが秋田の未来を創る 二拠点生活で挑む、スポーツ鬼ごっこの可能性

佐々木 隆 (昭和50年卒)

第1章：外から見た秋田、中から触れる秋田

私は現在、東京郊外の自宅マンションで暮らしつつ、半年に一度は実家のある秋田に滞在するという「二拠点生活」を送っています。離れた場所からニュースやネットを通じて耳や目にする秋田は、少子高齢化や人口減少、あるいは経済の停滞といった、どこか寂しい数字や言葉です。県外で暮らす同窓生の皆様も、故郷の行く末を案じつつ、どこか遠い世界の出来事のように感じてしまう瞬間があるのではないのでしょうか。

しかし、実際に秋田の土を踏み、人々と対話を重ねてみると、そこには数字だけでは決して測ることのできない「人の熱量」が確かに眠っていることに気づかされます。この熱量を形にし、次世代へ繋ぐ確かな一助になりたい。その一心で、4年前に定年を控えた私が情熱を注いで取り組んでいるのが「スポーツ鬼ごっこ」の普及活動です。

第2章：志は高く、足元は地道に —— 200箇所の公園を目指して

「なぜ、今さら鬼ごっこのか?」と、最初は不思議そうに聞かれることもありました。

スポーツ鬼ごっこは、誰もが知る「遊び」を現代的なルールで競技化したものです。単に足が速いだけではなく、チーム全体で役割を分担し、守備を崩すための作戦を練り、一瞬の隙を突く。体だけでなく頭もフル回転させる知略のスポーツです。

何よりの魅力は、小学生から現役の社会人、さらにはシニア世代までが、同じフィールドで対等に笑い、競い合えることにあります。この「多世代交流」こそが、人と人の繋がりが希薄化しつつある今の秋田において、最も必要な処方箋になると確信しました。

私の目標は、秋田市内の公園200箇所でこの体験会を開催し、街中に「子どもたちの歓声」と「大人の笑い声」を取り戻すことです。しかし、理想と現実の間には大きな壁がありました。当初は秋田滞在中に自ら公園を巡り、地道に体験会を重ねましたが、なかなか参加者が定着せず、孤独な足踏み状態が続きました。

転機は二年前の夏でした。知人の紹介で、全天候型施設「光沼アリーナ」に出会い、毎月第一火曜日の夜に定期開催を始めたのです。季節や天候に左右されず、安心して集まれる「拠点」ができたことで、少しずつ、しかし確実に「クチコミ」という確かな絆が広がり始めました。

第3章：私がいなくても、火は消えなかった

二拠点生活を送る私にとって、最大の不安は「不在期間」の壁でした。私が東京に戻っている半年間、リーダー不在で活動の灯が消えてしまうのではないかと。住んでいる地域も生活時間帯もバラバラな参加者たちが、拠り所を失い、またバラバラになってしまうのではないかと。

しかし、その心配は全くの杞憂に終わりました。参加者の皆さんの「この場所を守りたい、繋がりを継続したい」という思いは、私の想像を遥かに超えて強固なものになっていたのです。

半年ぶりに秋田へ戻り、アリーナの扉を開けた時の光景を、私は一生忘れません。そこには以前と変わらぬ、いえ、不在前よりも熱気を帯びた試合風景が広がっていました。そして、私の顔を見るなり、小学生から大人までが「佐々木さん、お帰りなさい!」と満面の笑みで迎えてくれたのです。

私が不在の間も、彼ら自身の手でバトンは繋がっていました。スポーツ鬼ごっこが、単なる運動の場を超えて、地域の人々にとってなくてはならない「心の居場所」へと成長していた瞬間でした。

第4章：秋田を思う「心」を「アクション」へ

秋田の少子高齢化という大きな流れを、一人の力で止めることはできないかもしれません。しかし、そこに住む人たちの心が孤立していくのを防ぎ、新しい風を吹き込むことは、今この瞬間からでも可能です。

今、この原稿を読んでくださっている同窓生の皆様にお願ひがあります。秋田を離れて暮らしていても、故郷への「応援マインド」を形にする方法の一つではありません。

「帰省した際に、一度アリーナへ遊びに来てみる」

「活動のSNSをシェアして、秋田の知人に伝えてみる」

「自分の得意分野で、このコミュニティを支えるアイデアを出してみる」

どんなに小さな一歩でも構いません。皆様の持つ経験やネットワーク、そして故郷を思う気持ちがアクションに変わる時、それは秋田の未来を照らす確かな光になります。大の大人が本気で鬼ごっこに興じ、汗を流す姿の中に、停滞感を打ち破るヒントが隠されていると私は信じています。

第5章：結びに代えて —— 千秋の誇りを次世代へ

故郷を思う気持ちに、住んでいる場所や費やせる時間の長さは関係ありません。大切なのは「自分にできる一歩」を今、踏み出すことです。私はこれからも、東京と秋田を行き来しながら、この「遊び」の力を信じて活動を続けていきます。私たちの愛する秋田が、世代を超えた笑顔で溢れ、若者が「ここで育ってよかった」と思える場所であり続けるために。

いつの日か、秋田市内の200箇所の公園すべてに、あの歓声が響き渡る日を夢見て。皆様とフィールドで、あるいは秋田の空の下でお会いできる日を、心より楽しみにしています。

【活動への参加・お問い合わせ・応援はこちら】

スポーツ鬼ごっこ広め隊

代表：佐々木隆

メールアドレス：kenketsu200@gmail.com

※毎月第一火曜日 19:00～ 光沼アリーナにて定期開催中。見学・冷やかしく大歓迎です!



代表社員 税理士
磯崎 悠耶 (平成8年卒)
税理士法人 **M.U.G.E.N.**
(ムゲン)
〒010-0011
秋田市南通亀の町4番15号 ヤマキビル2F
TEL 018-836-1780 FAX 018-836-6771
<https://mugen-a.com>

吉成皮膚科クリニック
診療時間
月 火 水 木 金 土
午前8:30~12:00 ● ● ● ● ● ● 8:30
午後2:00~6:00 ● ● ● ● ● ● 13:00
※休診日 日曜日、祝祭日
院長 医学博士
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
吉成 力 (昭和61年卒)
秋田市将軍野桂町33-18
☎018-847-3712
URL <https://www.yoshinari-hifuka.com>

医療法人
内科 濱島医院
胃腸科
院長 濱島由紀
医学博士 Yuki Hamashima, M.D.
(昭和61年卒)
〒010-0911 秋田市保戸野すわ町15-20
TEL (018) 823-5252
FAX (018) 823-6631
E-mail: hamayu-cli@if-n.ne.jp

A・B・C
株式会社
秋田物流センター
代表取締役社長
田牧 学 (昭和61年卒)
秋田市御所野湯本二丁目1番2号
TEL (018) 853-7211
<https://abc-buturyu.com/>
info@abc-buturyu.com